



## 本日はよくお参り下さいました

境内の新緑がまぶしくなってきましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。4月8・9日、天皇皇后両陛下がパラオ共和国を公式訪問し、戦没者の霊を慰められました。私は「戦争」という言葉だけでは戦時中にあったことを手に取るようには思い浮かべられない世代ですが、最近読んだ小説「ビルマの堅琴」の世界とちょうど重なり、日本から遠く離れたところで散華した兵士たちの気持ちに自然と思いが馳せられ、一層感慨深いものがありました。「ビルマの堅琴」は、戦時下のビルマ(現在のミャンマー)で戦った日本兵の話です。フィクションとされていますが、出版当時から登場人物は私だと名乗り出る人が続出したほど、国民に支持された児童文学です。反戦でもなく戦争賛美でもなく、当時あり得た状況を切り取ったような、心打たれる一冊です。さて、話はかわりますが、書籍掲載のお知らせです。5月10日 榎(えい)出版社から発行された『横須賀本』のP40で当社が紹介されています。是非御覧ください。今月も皆さまのご安寧を心よりお祈り申し上げます。権禰宜 道子



## 5月

1日 月首祭 月の初めの恒例祭祀。

3日 憲法記念日 日本国憲法の施行を記念し、国の成長を期する。

4日 みどりの日 自然に親しむとともにその恩恵に感謝し、豊かな心をはぐくむ。

5日 こどもの日 こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する。

15日 月次祭 月の半ばの恒例祭祀。



### 今月の格言

「神は正直にして明らかなり  
故に神明といふ」

—宮城春意—

ただ「神」といえばよいのに、何故「神」のことを「神明」というのかという問いに対する一つの説き方である。宮城春意(みやぎしゅんい)は、林羅山の門下で、寛文(1661~1672)の人で、神儒一致の神道を説いた。参考『神道百言』岡田米夫著

### 5月2日は八十八夜

春から夏に移る節目の日、安定した気候となり、縁起のいい日とされています。



## 天神さまの豆知識

### 言葉を通して知る神道

◆「いみ」? 「忌み」? 「齋み」?

「いむ」といふ言葉には日本人独特の神聖観念が現れています。この「いみ」は、清浄なものを特別扱いにする「齋(いみ)」と、不浄なものを特別扱いする「忌(いみ)」とがあり、この「いみ」が、望ましい物を尊重して「齋む」または「齋(いむ)」態度や、望ましくないものを避けて「忌む」態度となつて、清浄不浄の観念となつていきます。そもそも清浄不浄とは具体的に何をいつのことでしょうか。▼「清浄」とは、人間の生活にとつて実際に価値があり、望ましいものすべてを言い、生命力旺盛なものやさま、たとえば、ほんの一例ですが「天(あめ)」「足る」「よし」などがあります。「不浄」とは、罪穢れとされるもので、人の悪業、災いなど、人々が不吉として憎み嫌う事柄すべてを言います。

◆「ケ」のつく言葉

穢れ(けがれ)、御饌(みけ)、飢渴(けがち)など、日本語には「ケ」のつく言葉が多くあります。それぞれ漢字は違いますが、もともと文字を持たなかった日本語に漢字をあてはめたわけですから、「ケ」という言葉に何らかの特別な意味があると考えて良いでしょう。さてそれは一体何でしょうか。▼農村



社会であった日本では、稲米を成長させ実らせる生命的な霊力を「ケ」といい、また非日常の状態の「ハレ」にたいして日常生活のことを「ケ」といったりします。このように「ケ」という言葉は、作物を成長結実させる霊力を指しています。▼こう考えると、穢れは「ケ」枯れであり、ただの、きれいではない、という観念ではなく、生命力の衰えという日常秩序の危機を意味しているということになります。「最近ツイてないからお祓いしてもらおうかな」という考えに至るのは、無意識のうちに「ケ」の存在を感じているからかもしれません。

### ◆清き明き誠の心をもって

これまで述べてきたような観念をベースにした清明心といった、清く明るく直く正しく、こころのあり方は、やがて日本人の文学や芸術、倫理観にも影響をあたえるようになります。さらに言えば、社会の秩序もこのような心のはたらきによつて長い間保たれてきました。▼日本人が物質的な豊かさより、心の豊かさを持つていたと言われる時代、その時大切にしていた価値観を知るといふことは、大変意義深いことだと思います。今回は日本語を通して神道にまつわるお話をさせて頂きました。▼参考文献『神道—日本の民族宗教—』弘文堂発行 園田稔編

